

平成21年度 府立綾部高等学校東分校全日制 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）(実施段階)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<ul style="list-style-type: none"> ・学力の向上と希望進路の実現 ・基本的生活習慣の確立 ・豊かな人権感覚と人権尊重の実践的態度の育成 ・健康及び体力の維持・向上 ・地域社会から信頼される学校づくりの推進 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生は希望進路をほぼ達成した。また、農業関連の専門性を生かし、各分野で活発に取り組むことができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・希望進路実現に向けて個に応じた学力向上策が必要。 ・東祭、即売会、クリスマスケーキ作り等の行事を生かした学校生活の活性化と専門教科のなお一層の充実。 ・家庭、地域との連携や広報活動の充実による開かれた学校づくり。 ・学校不適應生徒に対する、組織的な対応やスクールカウンセラーの活用、及び特別支援学校との連携。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律を確保し、学力向上に向けた日々の授業を充実させる。 ・希望進路を実現させるため系統的な進路指導を行う。 ・豊かな人間性を育み、規範意識を高める生徒指導を行う。 ・基本的人権を尊重する人権教育を推進する。 ・健康安全教育を着実に推進する。 ・地域・家庭及び中学校との連携を強化する。 ・HPや広報誌等を通じて広報活動を一層充実させる。 ・農業クラブ活動、部活動の一層の活性化に努める。

評価領域	項目(重点目標)	具体的方策	評価	成果と課題	
組織・運営	連絡・調整の徹底	学校経営方針に基づく各分掌・教科の目標を周知徹底し、部長会議や各種会議を効果的に機能させる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、生徒アンケートについては、詳細に分析ができ、各分掌の総括に利用できた。 ・東分校将来構想会議が始動し、新コース案が示された。 ・経費の節約については、教職員の協力のもとほぼ達成された。
	評価制度の活用	評価制度の効果的・円滑な運営を行う。 外部評価を分析し効果的な活用を行う。	B	B	
	東分校の将来構想の検討	東分校の将来について、プロジェクトチームを構成し検討する。	A	A	
	経費の節減	光熱水費等の義務的経費の節減に努める。	B	B	
教育課程の編成と実施	教育課程の研究	新学習指導要領を受けて、教育課程を研究する。	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・十分に研究は進んでいない。理科・数学等早期実施分については、急ぐ必要がある。
		専門教科の教育課程について研究する。	C	C	
学習指導	学力の向上	規律ある学習環境をつくり、授業に集中させ、学力を向上させる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に比べ、授業規律は改善されたが、まだまだ課題は残る。 ・進路目標を明確にさせるためにも、専門学科に関連する進学、就職を充実させる取組が必要である。 ・クリスマスケーキの需要が年々減っており、今後検討をする必要がある。 ・毒劇物取扱者資格に3名が合格した。
	進路希望に向けた学習	進路目標を明確にさせるとともに、個に応じた学習活動に取り組む支援を行う。	B	B	
	専門教育の充実	特色ある専門教育活動を展開していく。	B	B	
	農業クラブ活動の充実	各種競技会・クリスマスケーキ作り・学習発表会等を活性化させる。 講習会に積極的に参加させ、資格取得の合格率を上げる。	A	A	
特別活動	学校祭、修学旅行の充実	本校と合同の取り組みに積極的に参加させる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本校生徒との合同の取組を嫌う生徒は少なくなく、今後の連携に工夫が必要である。 ・東祭、春秋即売かなど地域との連携を強化する充実した内容の取組ができた。
	東祭の充実	学習発表、農産加工品即売など、日頃の学習の成果を発表する場として生徒と教職員が一体となって取り組む。	A	A	
	生徒組織活動の充実	生徒委員会組織を指導し、それぞれの役割で活動の内容を深める。	B	B	
生徒指導	基本的生活習慣の確立	時間厳守、挨拶の励行、身だしなみを整える等日常生活の中で点検し、家庭とも連携しながらよりよい習慣づくりを行う。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な点検により、身だしなみの改善指導を行っているが、まだ、自律的に行動できる生徒は多いとは言えない。 ・規範意識はまだまだ薄く、教職員が一致した指導体制を確立する必要がある。
	規範意識の向上	法律や校内規定、社会のルールを守る意識を高める。 TPOに応じたマナーの向上を図る。	B	C	
進路指導	専門分野への進路指導	専門を生かした就職・進学を指導する。	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・進学については、生徒が希望する進路先に進めることができ、就職については、面接指導等、就職試験に向けた取組を充実させることができた。 ・進路に対する意識を改革と指導内容の検討、就職先の開拓と就職内定率の向上、1年生からの系統的な進路指導内容の検討等課題が残る。
	希望進路の実現	積極的に就職先の開拓に取り組む。	C	C	
		個々の希望に即した進路指導を展開する。	B	C	
	進路意識の改革	1年生より進路に関する意識の高揚を図る指導を行う。	B	B	

評価領域	項目(重点目標)	具体的方策	評価		成果と課題
人権教育	人権意識の高揚	日常生活の中で豊かな人権感覚と人権尊重の態度を育てる。 分掌間の連携を密にし、効果的かつ計画的な人権学習を進める。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・人権意識の高揚を図るため、学年、分掌、教科と連携して、人権学習を進めることができた。 ・スクールカウンセラーのカウンセリングや保護者、保健部との連携により、不登校傾向のある生徒が安定した学校を送れるようになった。
	就学保障及び関係機関との連携強化	援護制度について理解を深めさせる。	B	B	
	不登校生徒への対応	学校適応指導会議を充実させ、ていねいな対応をする。 スクールカウンセラーを活用する。	B	B	
健康・安全教育	実態に合わせた素早い対応	生徒の健康状態を把握し、必要に応じて迅速に対応する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の美化意識を高める取り組みが必要である。 ・学校保健計画が整備でき、次年度については、計画的に課題の解決を図ることができる。 ・機械、器具の取扱いについては、授業開始前や実習に伴う学習で、担当から事前に指導をすることができた。
	保健学習の充実	3年間を見通した保健学習を計画・実施する。	B	B	
	校内の美化と、衛生管理	全教職員が安全・衛生に対する意識を持ち、美化活動の指導を実践する。	A	A	
	農機具・実験実習器具の安全な取り扱い	機械・器具の点検と、適切な取り扱いの指導をする。	A	A	
学習環境・安全管理	施設設備の安全管理	日常的にあるいは環境の変化に応じて点検する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学期に1度の校内安全点検ができた。 ・学校安全計画が整備でき、次年度については、計画的な管理が可能となった。
	救急連絡体制の再確認	保健部を中心にマニュアルに沿った実践をする。	B	B	
	緊急時対応マニュアルの再確認	生徒指導部を中心に研修・訓練に努め実践する。	B	B	
施設・設備・備品等管理	効果的な学習環境の維持	日常点検に努め、専門性の高いものについても見通しのある計画的な点検・修繕・補充を行う。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・スロープの設置や下駄箱屋根改修等計画的な修繕ができたが、点検・調査にとどまった箇所もあった。
研究・研修	学習意欲を高める教材研究	生徒の実態に合わせた教材を工夫し、興味深く学べる授業展開ができるよう研究・研修する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新規採用教員だけではなく、教科毎に活発化すべきである。 ・全教職員による公開授業時間を実施し、例年より参加者が増加した。
	授業力の向上	積極的に授業公開を行い、研修を行う。	B	B	
文書・情報管理	個人情報の適切な管理	文書管理、デジタルデータ管理を徹底する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・文書管理については、厳重に管理・保存することができた。
家庭・地域社会との連携	家庭との連携	文書・家庭訪問等きめ細やかな対応を行い、学校教育活動を保護者に伝え、連携を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップについては、もう一度在り方を考え、進路開拓への一助とするとともに、生徒の進路実現に向けての意識改革へと繋げたい。 ・本年度はもPTAには東祭への積極的な協力を得られた。
	PTA活動の活性化	東祭や巡視活動など積極的に活動する。	A	A	
	地域・関連機関との連携	即売会やインターンシップ、職場見学など地域の協力を得て教育活動を活性化させ、進路開拓に努める。	B	B	
広報	広報活動の充実	東分校広報誌「さわやか夢通信」を年6回発行する。 ホームページその他の広報活動を充実させる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・さわやか夢通信は予定を大きく越え、9回発行することができ、また、ホームページについても予定の15回更新を達成することができ、広報活動については、一定の成果が得られたように思われる。 ・分掌日より、学年通信等は計画的に発行されていた。しかし、各家庭まで確実に届いたかは不明で、今後、PTAのお知らせメールによる行事予定、配布物等の連絡を検討する必要がある。
	Webページの充実	機会あるごとにホームページの更新をする。	B	B	
	各機関誌等の充実	分掌日よりやホームルーム・学年通信などで学校の様子を保護者に知らせる。	A	A	
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・東分校の将来構想を検討していく中で、「育てたい東分校の生徒像」を確立し、教職員全体が共通認識のもと、具体的な取組を進める必要がある。 ・各分掌・教科において、教育活動アンケート、授業アンケート等のデータを分析し、課題を重点化して、次年度へ向けての取組を共通認識をもって進める必要がある。そのため、各分掌、教科の重点目標を3つにしぼり優先順位をつけ、更にそれぞれの具体的方策を3つにしぼり優先順位をつける。 また、第1順位の重点目標とその第1、2順位の具体的方策の2つを学校経営計画に盛り込み、教職員が共通認識のもと重点的な取組を進める。 				